



伊場 哲也 議員

ハラスメントアンケートの 目的と改善の進捗について

問 アンケートの目的と結果を受けての再発防止の取り組みについて伺う。

答 職員の意識と発生状況を把握し、今後のハラスメントの抑止と対応の参考とするため実施した。アンケート結果をフィードバックする際に、相談窓口を周知し、セルフチェックシートによる行動の振り返り等も行っている。

問 ハラスメント防止規程の見直しは行ったのか。

答 10月にカスタマーハラスメントの対応措置が義務化されることに伴い、どのような見直しが必要か検討し、対応する。

問 『ゼロハラスメントシティあさひ宣言』を市長に提言するが、見解を伺う。

答 カスハラ対応方針の策定に合わせ、改めてハラスメン

トは決して許されない行為であることを全職員が強く認識するように徹底する。市長名での宣言については適切に判断する。

中学生のウェルビーイング向上 の休日部活動地域展開について

問 9月から始まる休日部活動の地域展開とは何か。

答 学校の部活動が担ってきた教育的意義や役割を継承し、地域の団体が行う活動に展開していくことで、多様な活動を体験できる機会と、少子化の中でも活動を継続して取り組むことができる環境を整備するもの。

問 地域展開の主な目的とACC（あさひ地域クラブ）の位置づけを伺う。

答 地域展開は自己肯定感を高める契機となり、ウェルビーイング向上につながる。ACCとは、市が準備している地域クラブである。

問 指導者研修の内容を伺う。

答 基礎的な研修としてコーチング研修やハラスメント防止研修などを予定している。専門研修としては、種目別の指導であったり、コミュニティづくりといった内容の研修を実施する予定。



常世田 正樹 議員

快適な道路の整備について

問 国道と県道が交わる干潟交差点は朝夕の渋滞が激しい。正規の右折車線より狭くても、少しのスペースがあれば、数台の車が右折のために停車でき、直進や左折する車は円滑に交差点を通過できるので、渋滞の緩和につながると思うが見解を伺う。

答 当該交差点は、千葉県渋滞対策アクションプログラムにおいて主要渋滞箇所として選定されており、渋滞の緩和・解消を図るべき箇所に位置づけられている。右折車線の設置には大規模な用地取得を必要とする場合が多い中、提案のあったコンパクトな右折待ちをするためのスペースを設けることは、時間や費用を抑えた即効性のある対策であり、一定の効果が見込める。信号サイクルの見直しといったソフト対策も渋滞対策として有効とされているので、

これらの手法の導入を含めた渋滞対策を道路管理者である県に対し要望する。

青少年の健全育成について

問 子どもたちのポイ捨てと大人への暴言を耳にした。青少年の健全育成において、家庭・学校・地域が役割を持って子どもたちに関わることが重要と考える。今回の事案から、子どもたちの倫理感を養うことが必要であると考えるが、教育長の見解を伺う。

答 子どもたちのポイ捨てや大人への暴言といった行為は、公共の場におけるマナーとして看過できないものであり、倫理感や規範意識の育成は大変重要な課題である。学校教育においては、道徳教育や日常の生活指導等を通じて、公共心や望ましい行動について継続的に指導している。地域の方からの情報提供を学校と共有しながら、必要な指導につなげるとともに、保護者には公共の場での過ごし方や地域への配慮について指導するよう各学校からお願いしている。今後とも学校・家庭・地域が相互に連携しながら、子どもたちの倫理感や規範意識の育成に一体となって取り組めるように努めていく。